

(3) 設置時期および数

代替巣の設置はサシバの非繁殖期である2月に行った。また、利用確率を上げるために3つ設置した。

5. 代替巣を設置した箇所付近の営巣状況

サシバの調査開始後、平成19年、20年、22年、23年に自然巣での繁殖が確認された。代替巣は、設置後2年間は利用がなかったが、平成24年に自然巣No.5が崩落すると、その翌年の平成25年に代替巣No.3において繁殖が確認された。これは、日本で初めての事例である。その後1羽のヒナの巣立ちを確認した。また、平成26年には代替巣No.1において繁殖が成功し、2羽のヒナの巣立ちを確認することができた。

表-1 代替巣設置箇所付近におけるサシバの営巣状況経年

巢名	経年状況															
	平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	営巣状況	ヒナ数	営巣状況	ヒナ数	営巣状況	ヒナ数	営巣状況	ヒナ数	営巣状況	ヒナ数	営巣状況	ヒナ数	営巣状況	ヒナ数	営巣状況	ヒナ数
No.1巢	●	2	×		×		崩落	—		—		—		—		—
No.4巢	H20造巣		●	1+	崩落		—		—		—		—		—	—
No.5巢	H22年造巣				●	2	○		崩落		—		—		—	—
代替巣No.1	代替巣は平成23年2月に設置								×		×		×		●	2
代替巣No.2	代替巣は平成23年2月に設置								×		×		×		×	
代替巣No.3	代替巣は平成23年2月に設置								×		×		●	1	×	

<凡例> ●:繁殖成功 ○:繁殖中断 ×:繁殖なし

6. 猛禽類のエサとなる小動物対策

検討会において、猛禽類のエサとなる小動物に対しても対策が必要との提言を受けた。建設現場では、降雨後に集水枡や側溝でカエルが這い上がろうとしているがうまくいかない状況が頻繁に確認された。カエルは生態系を支えるピラミッドの下位部分を担う存在であり、その上位にはヘビや小鳥、最上位にはサシバやオオタカ等の猛禽類が存在している。よって、生態系の維持のためカエル等の小動物が排水溝に落ちても這い上がれるような対策の検討を行った。

集水枡等はすでに設置済みで大きな構造変更は経済性及び施工性等の点から困難であり、また建設後に市町へ移管することから、維持管理しやすい仕組みの対策を検討することとした。そこでカエルが集水枡の隅の表面が粗い箇所を伝って這い上がっていることに着目し、コンクリート内側壁面を粗面化するために防滑材の塗布を行った。また、排水溝上流端部からも這い上がれるように土のうでスロープ状にした(写真-6)。施工後に現地を確認したところ、集水マスに落下したカエルが這い上がりおり防滑材の効果をj確認した(写真-7)。

7. まとめ

常磐自動車道全線開通後は交通量が猛禽類の繁殖に与える影響を確認するため、富岡町～新地町間の営巣地付近においてモニタリング調査を実施し、猛禽類の繁殖成功を確認した。代替巣を利用した環境への工事による影響低減策は、他の建設現場においても活用可能な事例であり、自然環境保全対策の参考資料として活用可能なように取りまとめているところである。最後に、当該地区が今後もサシバが生息できるような保全状態のよい里山環境であることを期待する。

<参考文献> (1) サシバの保護の進め方:平成25年12月 環境省自然環境局野生生物課



写真-4 代替巣設置木全体



写真-5 代替巣で繁殖したサシバのヒナ



写真-6 排水溝に土のうを設置

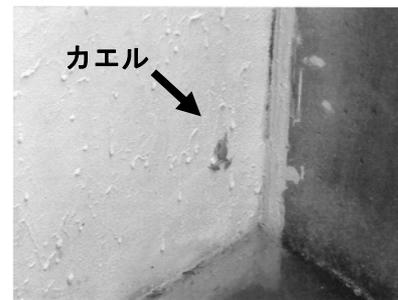


写真-7 防滑材塗布面を這い上がるカエル